

C-9 洋服設計図と図学の考察

岡山就実短大 藤井美枝子

目的 人間の生活の中で衣服生活の占める分野は大きい。寝ているときも、起きているときも衣服を身につける。そしてその時どきの人間の行動に忖じて着がえることによつて、その役割と目的を果たすことができる。けれども人間の立ち居ふるまい、日常の動作による動きは同一である。たとえば手の動きにしても、上げる・下げる・回すなど万人といえどもある意味では一人である。あらゆる面に機能性とバランスを保っている人体を被う衣服構成は、美的とか役割以前に人体の動きと同じように機能的な衣服設計図の確立の必要性を深くして、次のような事項について考察しました。

方法

- (1) パンタロンの体型による平面展開と、臀部の伸展の平面展開について
- (2) 手の付根と手の方向(シルエット)による平面展開について
- (3) 肩と手の動きの平面展開について

今回は(3)の問題を発表します。手や肩の運動による動きの考察は回を重ねておりますが、今回は図学的考察によつて展開します。

結果 ファッションの多様化、繊維の発展をビジネスラインに結び、コンピュータで処理する現状の中で、衣服製作の工程で仮縫いや補正は許されません。

そこで、動きや曲線・厚経の平面化を図学的正図に求めることによつて、正確さとスピーディーと機能性をもつ図解となります。